

〔科目名〕 <b>経営史</b>	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 <b>四宮 俊之</b>	〔オフィス・アワー〕 時間： 講義時間の30分前頃から非常勤控室にて対応できます。メールでも可。	〔授業の方法〕 shinomi-mill@mountain.ocn.ne.jp
〔科目の概要〕 <b>経営史(学)</b> とは、 <b>個人や組織によるモノやサービス、情報などの創出と需要先への提供、それによる利潤の追求などが如何になされてきたのかを、過去の企業家や企業による意思決定や行動の経緯、要件、背景などを含めて歴史的に理解、解明しようとする学問</b> です。英語では Business History と称します。 そこで <b>先ず経営史(学)が学問のひとつとして生まれた経緯や問題意識などを概説し、次に私自身の視点や問題関心などを加えながら、日本におけるビジネスの歴史的展開を企業活動の諸側面やプロセスとステップに対応させながら多面的に解説、論述</b> します。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 経営学や経済学など <b>社会科学の多くは、経験科学としての性格を強く持っています</b> 。それは例えば解法や結論が論理的に正しかったとしても、それらが <b>現実の事象</b> に必ずしも当てはまらず、現実的な意味をもたなければ、単なる一つの <b>試論か、空論</b> に過ぎないと考えることを意味します。また、それらの事象が <b>人間による営為の一つとして発現する以上は、そこに多様な個性の現れや評価</b> がありえることも前提とされます。 ところで、われわれは、ほぼ一様に生まれてから多くのことを <b>自らで経験</b> し、そこから少なからず学んでいきますが、人間が一人で自らの経験のみで学べることには <b>限度</b> があります。そこで、多くの人たちが <b>過去の他人の経験</b> などをさかのぼって <b>見聞、検証</b> し、そこから得られた知見を自身の考えや行動に <b>反映</b> させたり、物事をより合理的あるいは効率的に成し遂げるための <b>参考</b> としてきました。 経営史(学)でも、 <b>人間による経済的営為としての企業活動の諸事象を過去にさかのぼって検証し、そこから現代や将来の企業活動に役立つ歴史的な経験則や要件</b> などを学び、さらに <b>自身の経験も加味</b> するなどして <b>今後の意思決定や行動の指針</b> にしえることを <b>期待</b> していく学問です。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 この講義では、 <b>経営史(学)の問題関心や視点</b> などを踏まえ、 <b>日本での近代ビジネスの歴史的な生成</b> について概説します。なお、 <b>歴史学</b> では、一般にいわれる <b>「正史」</b> なるものが存在しないと考えます。歴史は、いつも時代ごとなどで <b>次なる「読み直し」が必要</b> となります。これは、たとえ現代において正しい <b>歴史的</b> の事実や解釈であると見做しても、次の時代になると往々に <b>別の評価や解釈</b> が妥当になることを意味します。 そこで将来の次なる時代を担う <b>皆さんは</b> 、たとえ私の講義内容が一見正しい <b>歴史的</b> の理解や評価を述べているように聞き取ったとしても、その <b>適否を自分自身で問い直し、読み直して</b> みてください。それが大学にて <b>皆さんが学問</b> に取り組む場合の <b>本筋</b> であり、 <b>到達目標</b> であろうと思います。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 私の授業内容については、話が分かりにくいとの指摘が時折あります(他方で多様な内容がよいとの意見もありますが)。これは、 <b>企業家や企業による歴史的な実践の事柄</b> について、それぞれの <b>多様性や個性への目配り</b> が重要で、私自身の論述がそれほど <b>単純明快な説明</b> を意図していかないためかと思えます。それでもできるだけ平易な説明を心掛けていきますが、 <b>皆さんも、そうした多様性や個性についての理解</b> を踏まえ、このシラバスでの授業スケジュールの説明などを見返えすなどしてもらえれば有難いです。また、 <b>板書</b> については、授業要旨のまとめでなく、 <b>難読字の表記</b> などを中心に行っています。 <b>皆さんには、講義の内容だけでなく、それについての自身の感想や考えを各自が工夫したやり方でノートに記入、纏めてもらいたい</b> と思います。そのようにして作成された個人のノートは試験での持ち込みを可とします。 <b>多くの社会職業人にとっては、自身による独自のノートやメモの作成が重要な知的ツールの一つ</b> となっていくしますので・・・。		
〔教科書〕 指定なし		
〔指定図書〕 マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、岩波書店、1989年。		

ベンジャミン・フランクリン『若き商人への手紙』 綜合法令出版、2004年。  
 福沢諭吉『学問のすゝめ』 講談社学術文庫、講談社、2006年。  
 渋沢栄一『現代語訳 論語と算盤』 ちくま新書、筑摩書房、2010年。  
 A・D・チャンドラー『大企業の誕生・アメリカ経営史』 ちくま学芸文庫、2021年。  
 宇田川勝、他編『企業家活動からみた日本ものづくり経営史』 文眞堂、2014年(四宮も分担)。  
 四宮俊之『近代日本製紙業の競争と協調』 有斐閣、1997年。  
 四宮俊之監修・DVD版『日本の企業家群像Ⅱ・第2巻』丸善、2006年(付属図書館所蔵、書籍版もあり)

〔参考書〕

阿部猛、他編『郷土史体系 / 生産・流通(上巻。農業・林業・水産業)、(下巻。鉱工業、製造業、商業、金融)』 朝倉書店、2020年。その他の図書、文献については講義で必要に応じさらに適宜紹介します。図書館などで参考にしてください。

〔前提科目〕 特になし。経営学や会計学、経済学関係の多様な科目全般の履修、理解を勧めます。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

期末に筆記テストを予定。評価の方法は、そこでの皆さんごとの**独自の解答内容の適否や妥当性**などに注目し、また各自の学習や講義への関与状況なども参考にして総合的にを行います。

〔評価の基準及びスケール〕

評価については、皆さんによる講義内容の理解だけでなく、科目の到達目標で既述したように講義で扱われた事柄や問題を**各自がどのように理解し、考えていったかなど**を重視します。なお、他人の言説や著述を**無断引用(コピペ)**しただけのものについては、「**盗用行為**」としてマイナス評価しますので、承知おきください。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

講義内容をただ鵜呑みして聞き済ましたり、ノートするだけでなく、それらを**皆さんが自ら考え、検証していく姿勢で学んでほしい**と思います。講義の構成や内容も、それを前提とし担当教員の持説や試論なども加えてできるだけ分かるように説明していきます。皆さんも、講義前後の質問や試験などで自身の問題関心や修学の成果などを積極的に提示したり、批評していくようにしてください。

〔実務経歴〕 該当なし

授業スケジュール

第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)： <b>経営史(学)の問題意識、課題など</b></p> <p>内 容： 経営史(学)が資本主義的ビジネスの高まりとともに出現してきたことや、そこでの問題意識や課題などについて解説する(プリント資料配布を次回に予定)。</p> <p>・指定図書なし。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)： <b>経営史(学)でのビジネス活動への視角や論点など</b></p> <p>内 容： 経営史(学)で扱われるビジネス活動の諸側面やプロセスの包括的、歴史的な理解に向けての講義担当者側での視角や論点などについて私論的な側面も含めて解説、説明する(プリント資料配布を予定、ここで配布ト資料は以降毎回持参してください)。</p> <p>・指定図書なし。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)： <b>【理念1】 賤商意識と国益主義</b></p> <p>内 容： かつて多くの国で往々にビジネスは賤しい事柄とされていたが、やがて国益主義や勤勉意識の高まりなどととも、そのような評価についての見直しが起きてくる。ただし、そこには歴史的、国際的な評価や意識の同異性や相関性などが見られたので、それらについて論述する。</p> <p>・指定図書：『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、『若き商人への手紙』</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): <b>【理念 2】 賤商意識と国益主義</b></p> <p>内 容: ここからは、日本でのビジネス活動についての評価や意識の推移や変遷などに重点をおいて封建期から近代への流れなどを論述していく。</p> <p>・指定図書: 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、『若き商人への手紙』</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): <b>【理念 3】 福沢諭吉による自由放任主義、独立自尊の提唱</b></p> <p>内 容: 日本における最初の資本主義的ビジネス理念の提示と、その意義などについて論じる。</p> <p>・指定図書: 『学問のすゝめ』</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): <b>【理念 4】 渋沢栄一による道徳経済合一説などの提唱</b></p> <p>内 容: 渋沢による合本主義の推進、その後の資本主義的拝金主義の広がりを受けての儒教倫理の再提唱などをたどる。</p> <p>・指定図書: 『論語と算盤』</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): <b>【理念 5】 ビジネス理念の多様化と累層化</b></p> <p>内 容: 企業ごとの経営家族主義や、F.W.テイラーの科学主義の広がりなどによる日本での理念の累層化について論じていく。</p> <p>指定図書: 『企業活動から見た日本のものづくり経営史』(四宮分担執筆)</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): <b>【意思決定と実行 1】 企業家、経営者の現場主義</b></p> <p>内 容: 藤原銀次郎(経験主義)、大川平三郎(工学主義)の事例 (DVD版使用を予定)。</p> <p>・指定図書: DVD版『日本の企業家群像Ⅱ・第2巻』(四宮監修)、『企業家活動からみた日本ものづくり経営史』(四宮分担執筆)、『近代日本製紙業の競争と協調』(四宮執筆)。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): <b>【意思決定と実行 2】 日本企業の意味決定と実行の有り様</b></p> <p>内 容: 日本的経営の視点から意思決定と実行の独自性を論じていく (プリント資料配布を予定)。</p> <p>・指定図書: 『近代日本製紙業の競争と協調』</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): <b>【企業統治】 日本企業における統治の有り様</b></p> <p>内 容: 誰が企業を支配したのか、そこでの日本的あり様の歴史的な推移や多様性を論じる。</p> <p>・指定図書なし</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): <b>【市場と技術の有り様】 近代(大)企業の市場と技術の歴史的生成要件</b></p> <p>内 容: 規模と範囲の経済性の視点から 日本での大企業の競争力と台頭を論じる (四宮執筆のプリント資料配布を予定)。</p> <p>・指定、参考図書: 『大企業の誕生・アメリカ経営史』</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): <b>【戦略】 規模や範囲の高経済性の追求</b></p> <p>内 容: 日本での事業分野ごとの市場と技術的な要件の異同や共通関連性から大企業による多角化を考える (同上プリント資料の利用を予定)。</p> <p>・指定・参考図書: 『大企業の誕生・アメリカ経営史』、『郷土史大系』(四宮分担執筆部分)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): <b>【個人企業、家族(同族) 企業、財閥の経営と台頭</b></p> <p>内 容: 財閥によるファミリー・ビジネスとしての事業展開と所有、支配や経営形態の変遷をたどる (プリント資料配布を予定)。</p> <p>・指定図書なし</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): <b>【非財閥系企業の成長</b></p> <p>内 容: リーディング・インダストリーとしての製糸業、紡織業の専門化と成長を論じる(プリント資料配布を予定)。</p> <p>・指定図書なし</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): <b>【近代日本の企業家、経営者の変遷</b></p> <p>内 容: 日本での資本家経営者からサラリーマン経営者の時代への推移、移行について考察する。</p> <p>・指定図書なし</p>
試験	筆記試験 (80分を予定)